Joto

要保存

施工説明書

フチなし高気密型床下点検口 FUCHINE：標準型

SPF-FN6060

この度は、本製品をお買い求めいただき、誠にありがとうございます。
正しく据え付けていただくために、また製品の性能・品質・安全性を確保するために、この施工説明書を**よくお読みいただき施工してください。**

安全上のご注意 必ずお守りください。

お使いになる人や他の人への危害、財産への損害を未然に防止するため、必ずお守りいただくことを説明しています。
●表示内容と記号の意味は、次のようになっています。

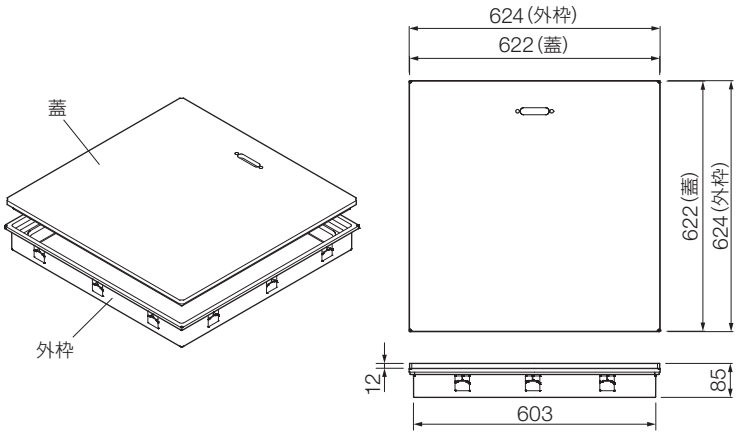
⚠注意	
⃠	この記号は、禁止の行為を示しています。
❗	この記号は、必ず実行していただく「指示」内容を示しています。

⃠	分解や改造をしないでください。製品の性能・品質が維持できない恐れがあります。
	樹脂製ですので、火気の使用や溶剤の使用に注意してください。
	樹脂製ですので、熱源（投光器など）のそばに置かないでください。
	保管は直射日光の当たる場所や高温・高湿になる場所を避けてください。変形・破損の原因となります。

❗	製品の特性上、仕上げ材の小口部分に保護がありません。そのため、仕上げ材の割れ・欠けなどが発生する恐れがあります。 上記要因による怪我の恐れがありますので、事前にお施主様へのご説明をおこなってください。
	無垢フローリングは環境の影響を受けて伸縮をする特性があります。 仕上げ材の影響（材種の特性や温湿度などの影響）により、蓋部分の反り・ねじれなどの変形が生じる恐れがあります。
	仕上げ材の施工は各仕上げ材メーカーの指示（フローリング間の隙間を大きく取る等）に従ってください。 ※ただし、仕上げ材の固定に釘又はステープルを併用する際は以下にご注意ください。 ・FUCHINE蓋部分に使用する釘又はステープルは25mm程度のものを使用し、打ち付け箇所は通常の1.5倍程度おこなってください。
	仕上げには小口部分の保護が無くても問題の無い仕上げ材をご使用ください。
	柔軟性の無い仕上げ材は避けてください。蓋は100kg（980N/100kgf）の荷重に対し3mm弱のたわみが生じますので割れなどの恐れがあります。
	下地開口部の目地幅は仕上げ材の特性に合わせて適切に設けてください。 Ex）乾燥時期の施工は目地幅を大きく取る。
	仕上げ材の特性による変形でガタツキや段差が発生する恐れがあります。発生した場合には、微調整をおこなってください。
	仕上げ材の特性による変形で蓋の開閉ができなくなる恐れがあります。開閉ができなくなった場合には都度、開口部の目地幅の調整をおこなってください。
	取手のネジとスペーサーの長さは仕上げ材の厚さ15mmを想定した長さになっています。
	収納庫は、収納物の重量によって変形する恐れがありますので、ブロック・レンガ・モルタル（間にビニールシートを入れる）などで収納庫の底部を受けるか、別売品の床下収納庫用補強ステーのご使用をおすすめします。また、2階に収納庫をご使用の場合は、床下収納庫用補強ステーをご使用いただくか、別途安全面を考慮した構造としてください。

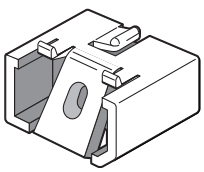
製品図

下地合板：24㎜ ＋ 仕上げ材：15㎜ を想定した製品です。

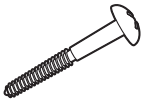


付属品

●スライドコア（12個）

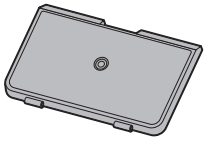


●スライドコア用木ネジ φ4.5×50㎜（12本）



●外枠高さ調整用ネジ φ3×16㎜（4本）

●キャップ（12個）



●回転取手

取手（1個）

取付ネジ M4×30㎜（2本）

スペーサー（2個）

城東テクノ株式会社

FUCHINE：標準型

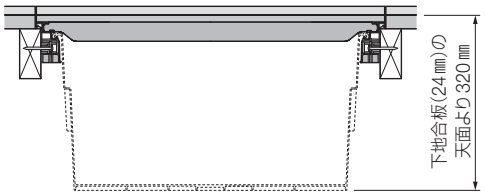
施工説明書の見方

この施工説明書はフチなし高気密型床下点検口「FUCHINE:標準型」、および「収納庫」を掲載しています。
下記事項を基に施工寸法に誤りがないようご注意ください。
※補強材と外枠の取り合いが気密ラインになりますので、補強材同士の取り合いや、補強材と合板の取り合いの気密処理に注意してください。

1 施工の前に

・高気密住宅の場合は、防湿・気密層が切れないようにしてください。
・収納庫を使用する場合は、下地合板(24㎜)の天面から土間まで以下の高さが必要です。
●収納庫薄型タイプ(SPF-60S1)使用時は190mm以上必要
●収納庫浅型タイプ(SPF-60S2)使用時は320mm以上必要
●収納庫深型タイプ(SPF-60S3)使用時は480mm以上必要

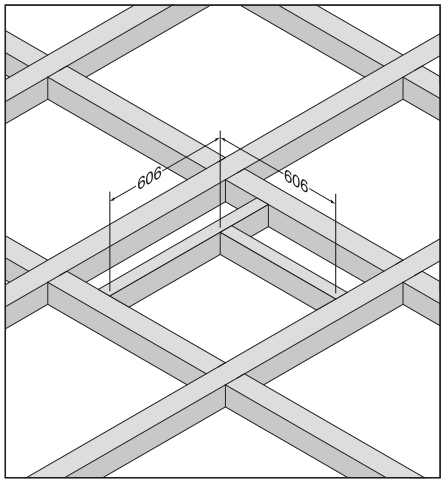
※浅型タイプ納まり図 **※フロア面からではないので注意**



2 下地作り (補強材と下地合板の開口)

1 下地の確認

600×600タイプは**606×606mm**の開口部が必要です。



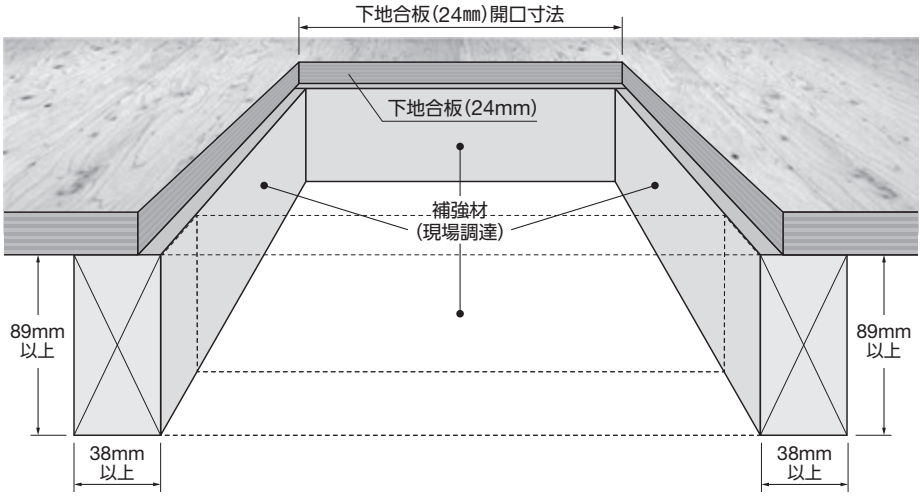
※補強材によっては気密性能に影響を及ぼす可能性があるため"2❸気密処理"の内容をご確認のうえ、取り付けをおこなってください。

2 下地作り・下地合板の開口

幅38mm以上、高さ89mm以上の補強材で四方に下地を組みます。
※補強材には乾燥材をご使用ください。
※床の開口部が荷重に耐えられるよう、下地組みは十分強度が確保できるように施工してください。

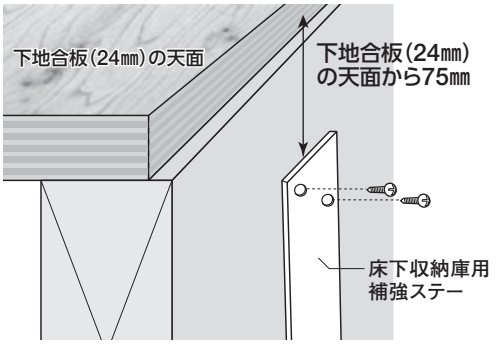
下地合板(24㎜)の開口寸法
・目地幅:3㎜の場合・・・628×628㎜
・目地幅:4㎜の場合・・・630×630㎜
・目地幅:5㎜の場合・・・632×632㎜

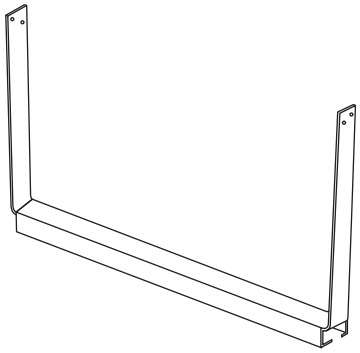
仕上げる床材の特長に合わせて目地幅を設定し、下地合板(24㎜)の開口寸法を決定してください。
※下地合板24㎜の開口に対し補強材の開口が芯振りになるようにしてください。



■床下収納庫用補強ステーを別売でご用意しています。

床下収納庫用補強ステーをご使用の場合は2❷完了後、ステーの上端が下地合板(24㎜)の天面から75㎜の位置になるように付属のネジ(ø4×16)で補強材(現場調達)に取り付けてください。
※2階に収納庫をご使用の場合は、床下収納庫用補強ステー(別売)をご使用いただくか、別途安全面を考慮した構造としてください。





対応収納庫	品 番
SPF-60S1	BU-SPF-HS60S1-SV
SPF-60S2	BU-SPF-HS60S2-SV
SPF-60S3	BU-SPF-HS60S3-SV

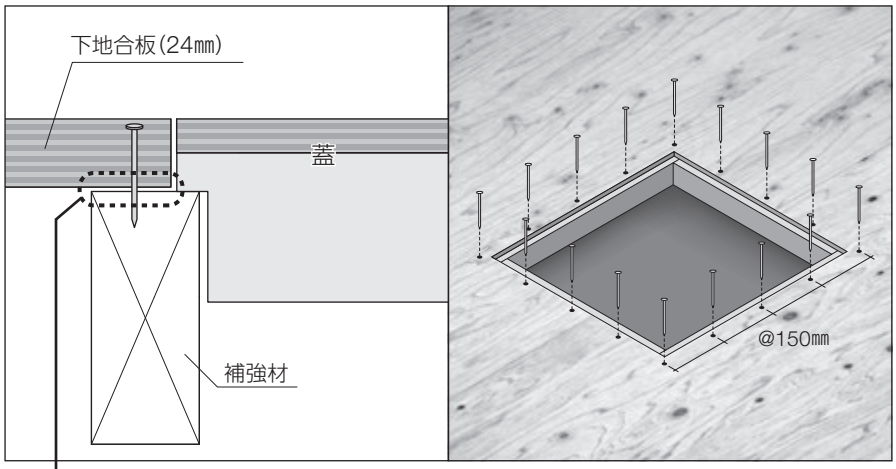
収納庫の注意点

下表の重さ以上ものを入れないでください。また、一点に集中して荷重がかかると変形の恐れがあります。

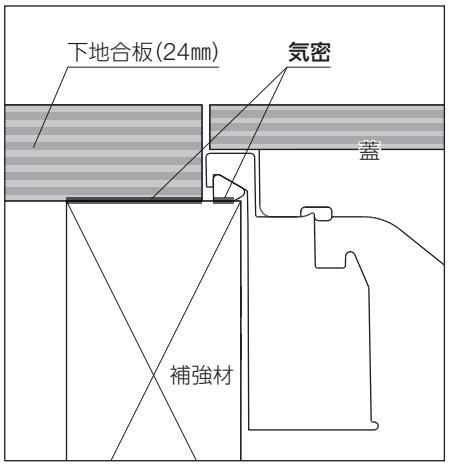
SPF-60S1	SPF-60S2	SPF-60S3
70kgまで		

3 気密処理

補強材との取り合い部の気密が必要となります。
気密性能を確保するために以下の点に注意してください。



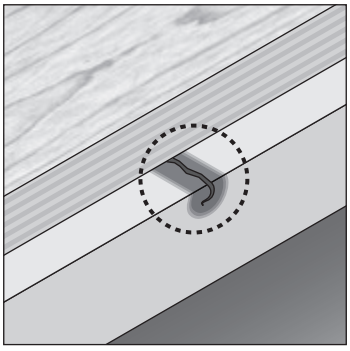
●気密のポイント



下地合板24㎜と補強材の間に隙間が生じないよう、
釘又は木ネジにて留め付けをおこなってください。
(@150㎜程度を推奨)

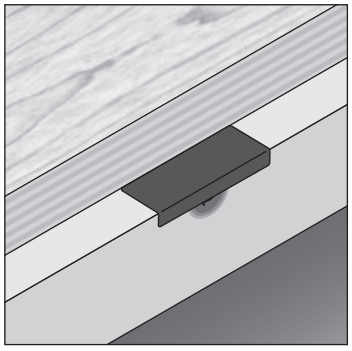
※そのほか図のような場合には漏気の懸念があるため、事前に気密テープなどで処理をおこなってください。
[気密テープは付属しませんので現場にてご準備ください]

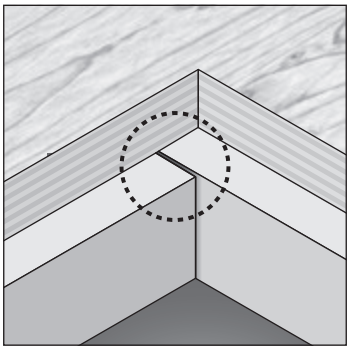
漏気の原因



・補強材の天面に節などで
割れや凹みがある場合

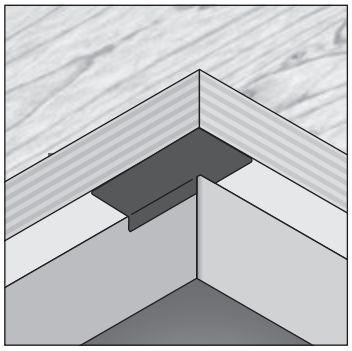
気密テープ処理

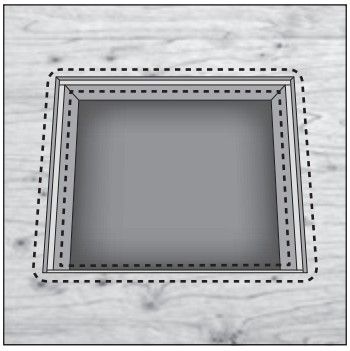




・補強材同士の取り合いに
隙間がある場合
※2×4材など角が丸い材で
補強をおこなった場合も同様

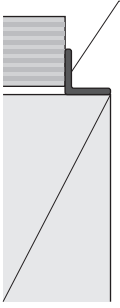
気密テープ処理

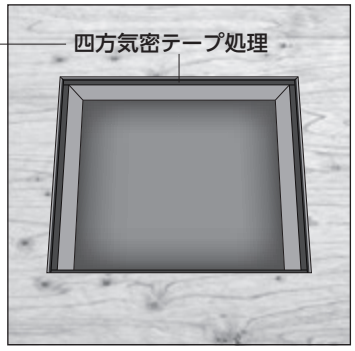




・補強材と下地合板(24㎜)の
取り合い全体に隙間がある場合

気密テープ処理



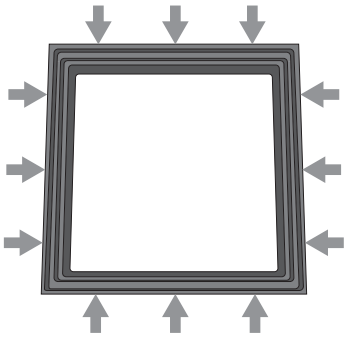


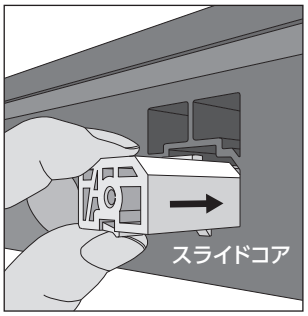
3 点検口の据え付け

1 スライドコアの取り付け

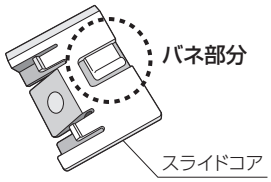
外枠の外側からスライドコアを差し込んでください。

※この製品にはスライドコア部分のネジ留めによる枠を押し下げる機能はありません。



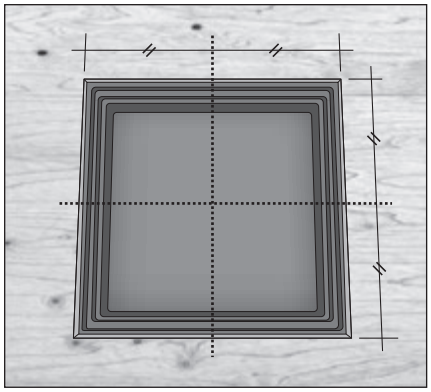


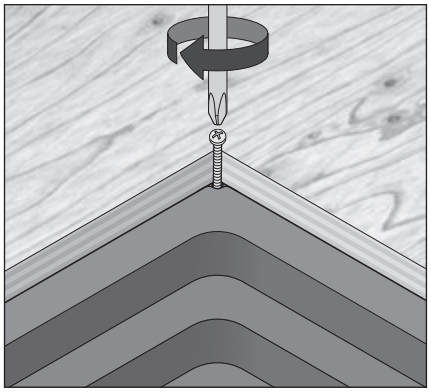
※外枠の内側から差し込む際は、図のバネ部分を押しながら差し込んでください。

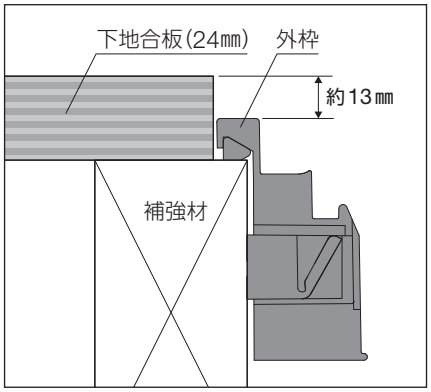


2 枠の仮固定

外枠を開口部に入れ、付属ネジ（φ3×16㎜）を天面の四隅にある孔に打ち込み、下地合板（24㎜）天面と外枠の天面の段差が約13㎜になるように仮固定をします。
その際、下地合板（24㎜）の開口に対し、芯振りになるように枠を設置してください。







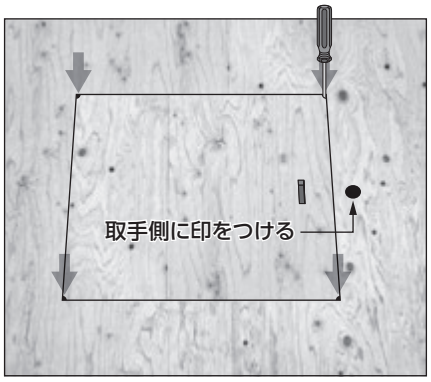
3 蓋の下地合板の高さ調整

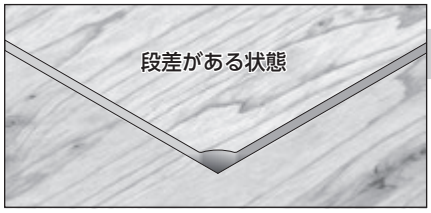
仮固定の外枠に蓋をし、開口廻りの下地合板（24㎜）と蓋の下地合板天面に段差が無くなるよう“3-2”の付属ネジを締めて高さの調整をおこなってください。
調整後、蓋の向きが変わらないように取手側に印をつけてください。

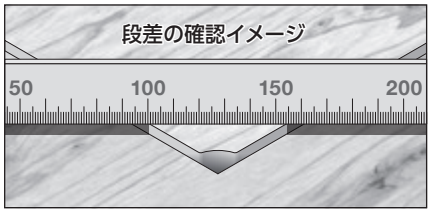
※高さ調整の際は、蓋の下地合板部分に荷重がかからない状態でおこなってください。荷重がかかると正確に調整ができません。

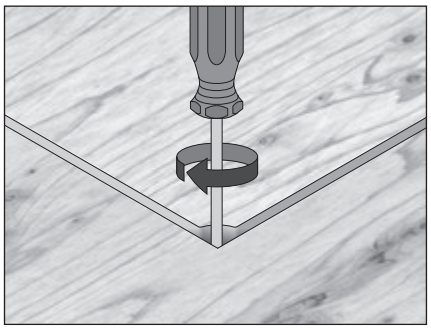
※下地合板（24㎜）以外の厚さの場合は“2-2下地作り”の時点で24㎜の段差となるよう予め調整をしてください。下地合板（24㎜）の天面と蓋の下地合板の天面が平らにならないと、仕上がり面が平らになりません。

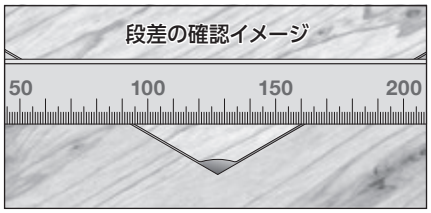
※下地合板（24㎜）、蓋の下地合板ともに、わずかに反りがあることがあります。その場合、最も凸になっている箇所にレベルを合わせて、蓋の下地合板が少し低くなるよう調整することをお勧めします。











4 スライドコア部分のネジ留め

①蓋を外し、下の図に沿ってスライドコアを付属ネジ（φ4.5×50㎜）で留め付けます。

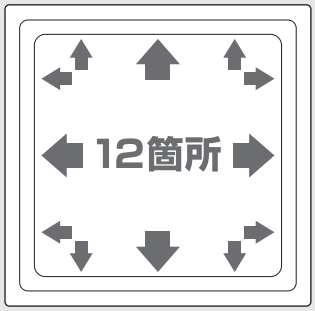
※スライドコア留め付けの際に外枠に手を掛けないでください。荷重が掛かると段差の原因となります。

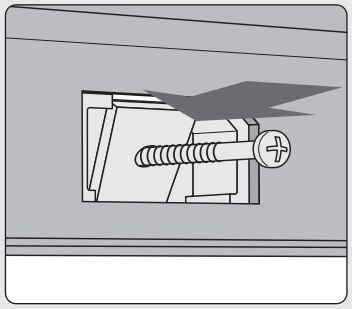
②固定後は蓋をし、段差やガタツキが無いことを再度確認してください。

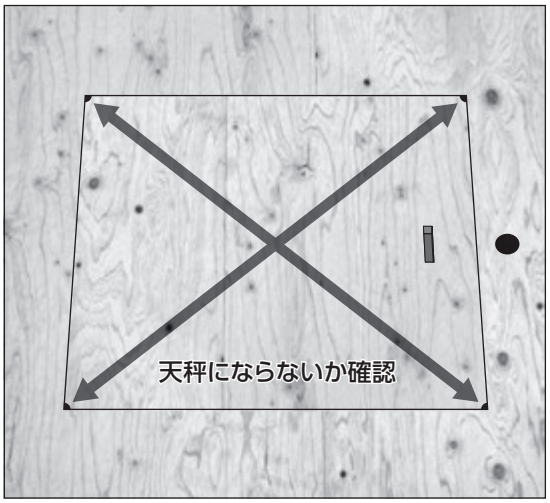
※この時点で段差やガタツキがあった場合には、スライドコアと四隅のネジをすべて外し、
点検口を90 度回転させた後に“3-2・3”の方法で再度調整をおこなってください。

③段差やガタツキが無いことを確認できた後、再度蓋を外しスライドコア部分に付属のキャップを取り付けます。

スライドコアは、中央部分から留め付けてください。
全てのスライドコアがしっかりと留め付けられていることを
確認してください。







※この製品にはスライドコア部分のネジ留めによる枠を押し下げる機能はありません。

4 蓋部分の仕上げ

1 仕上げ材の施工 (図1)

蓋の下地合板に合わせて仕上げ材を加工してください。

※木質系の床材を施行する際は、蓋部分には25㎜程度の釘又はステープルを使用し、
打ち付け箇所は通常の1.5倍程度おこなってください。

※その他の床材については、各床材の施工説明書に沿って施工をおこなってください。

2 取手の取り付け (図2・3)

取手部分の加工は同梱しているフロア材切断定規を型板として使ってください。
また、床材固定前に取手の仮付けをおこない加工に問題ないかを確認してください。

※取手部のネジの長さは仕上げ材の厚さ（15㎜）を想定した長さになっています。

図1

図2

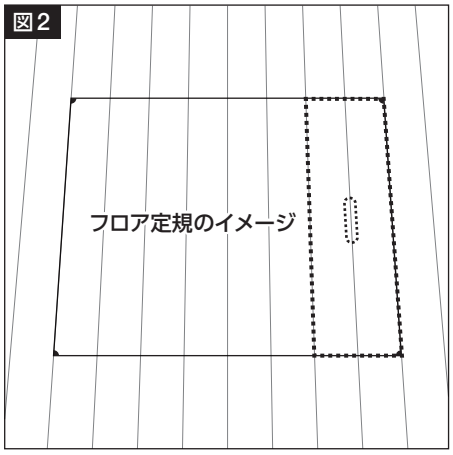
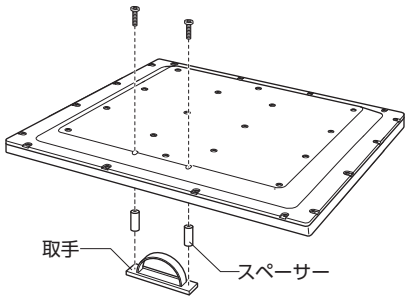


図3

取手を取り付けます。(M4×30)を
ドライバー（手回し）で留め付けます

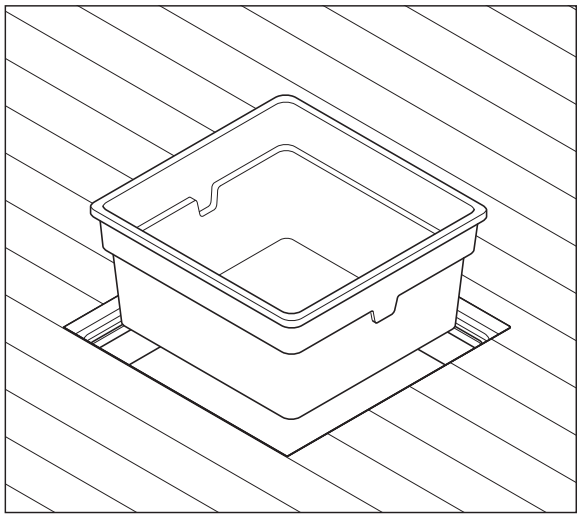


指示に従う

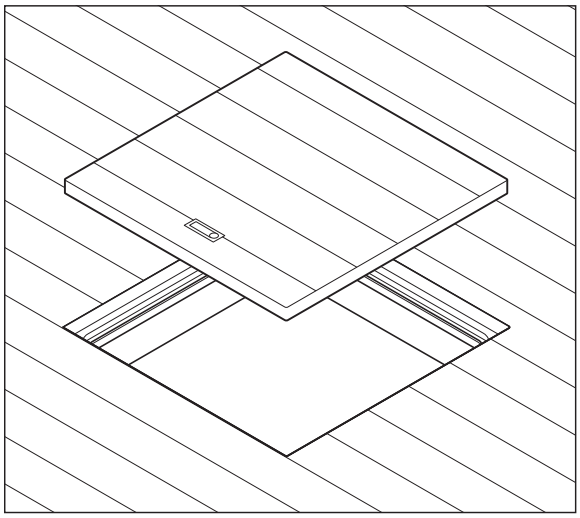
- 製品の特性上、仕上げ材の小口部分に保護がありません。そのため、仕上げ材の割れ・欠けなどが発生する恐れがあります。
  上記要因による怪我の恐れがありますので、事前にお施主様へのご説明をおこなってください。
- 無垢フローリングは環境の影響を受けて伸縮をする特性があります。
  仕上げ材の影響(材種の特性や温湿度などの影響) により、蓋部分の反り・ねじれなどの変形が生じる恐れがあります。
- 仕上げ材の施工は各仕上げ材メーカーの指示(フローリング間の隙間を大きく取る等)に従ってください。
  ※ただし、仕上げ材の固定に釘又はステープルを併用する際は以下にご注意ください。
  ・FUCHINE蓋部分に使用する釘又はステープルは25mm程度のものを使用し、
  打ち付け箇所は通常の1.5倍程度おこなってください。
- 仕上げには小口部分の保護が無くても問題の無い仕上げ材をご使用ください。
- 柔軟性の無い仕上げ材は避けてください。
  蓋は100kg(980N/100kgf)の荷重に対し3mm弱のたわみが生じます。
- 下地開口部の目地幅は仕上げ材の特性に合わせて適切に設けてください。
  Ex)乾燥時期の施工は目地幅を大きく取る。
- 仕上げ材の特性による変形でガタツキや段差が発生する恐れがあります。
  発生した場合には、微調整をおこなってください。
- 仕上げ材の特性による変形で蓋の開閉ができなくなる恐れがあります。
  開閉ができなくなった場合には都度、開口部の目地幅の調整をおこなってください。

5 蓋を取り付けます

1 収納庫を取り付ける場合は、外枠へセットしてください。



2 蓋を外枠へセットし、開閉に支障がないか、ガタツキがないかを確認してください。



城東テクノ株式会社
ユニークな建材で長持ち住まいをささえます。

本製品に関するお問い合わせは
ダイヤル【J】0120-106011
受付時間(土・日・祝を除く) 9:00~12:00/13:00~16:00

城東テクノホームページ
Joto
https://www.joto.com

Information ※製品の仕様は予告なく変更する場合がございますので、あらかじめご了承ください。

第③版 2511SK